

『テニピン』実施レポート
(日本テニス協会ホームページに掲載予定)

学校名	高松市立木太南	実施日	R5年11月
担当教員名	大原 航平	実施学年/人数	6年 35人
学習指導計画 (簡易で可)	<p>全5時間</p> <p>1時間目 オリエンテーション、ドリルゲーム(的あて、ラリーゲーム)、試しのゲーム</p> <p>2時間目 ドリルゲーム、触る回数を増やしてのゲーム</p> <p>3時間目 ドリルゲーム、入る場所によって得点が変わるゲーム</p> <p>4時間目 ドリルゲーム、チームの課題に合わせての練習</p> <p>5時間目 リーグ戦</p>		
授業の実際 (授業の様子)	<p>本校では初めての実践だった。児童はネット型のゲームは多く経験してきたが、ラケットを用いたゲームは初めてだった。テニスやバドミントンを経験している児童とそうでない児童の技能差が大きかったため、ボール操作の技能を高める活動を多く行った。子どもたちは、的あてなどで、自分が思い描いた場所にボールを打ち返すことができ達成感を得ていた。テニスのラケットではなく、手に装着して打つラケットなどでボール操作がしやすいことで子どもたちの意欲が高まったと思う。</p>		
授業づくりの工夫 指導の工夫	<p>①ラケットでボールを打つ経験が少ない児童が多いため、単元を通して、ボールになれる活動(ドリルゲーム)を行うことで、スモールステップで児童の技能を保障した。</p> <p>②子どもたちの技能や課題に合わせて、ゲームのルールやネットの高さ、コートを広さを変えていくことで、児童が課題意識をもって取り組めるようにする。</p>		
感想・質問 今後の実施予定等	<p>テニスを簡易化して行うゲームなので、子どもたちの「できた」が多く出る教材だと思う。また、コートを広さを工夫することで、多くの児童が活動できる環境も作ることができる。ルールの設定を失敗すると、苦手な児童が何もできなくなってしまうので注意が必要。</p>		